

神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会通信

Vol. 9, No.2, 通巻49号 2005. 7.10 発行

博物館周辺の身近な自然シリーズ(その9)

虫刺されに気をつけよう！

学芸員 荻部 治 紀

いよいよ、今年も「うつつうしい」季節である梅雨が始まりましたね。みなさんいかがお過ごしでしょうか？ 梅雨は洗濯物が乾かないし、我が家のように子沢山の家ではかなり深刻な問題ですが、でも実は一年の中でももっとも昆虫の多い楽しい季節でもあります。湿気は多くの昆虫にとっては必須のもので、まさに恵みの雨でもあるんです。梅雨の晴れ間は絶好の採集・観察日和でもあります。僕らが興味を持つ昆虫の多くは、この時期にだけ出現します。

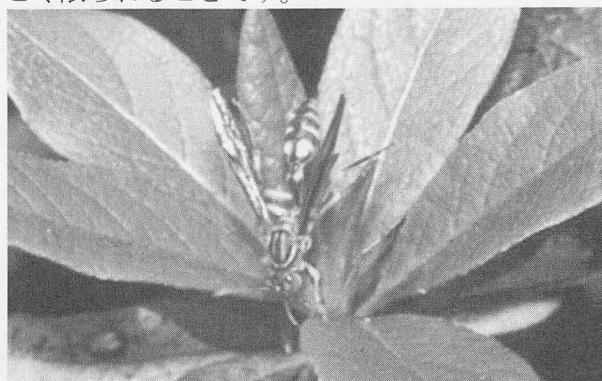
さて、編集長からは「博物館のまわりの昆虫を紹介してほしい」と依頼されたのですが、すでにご存知の方もおられるかと思いますが、僕は、実は昨年の1月にオーストラリアで「虫に刺されて死にかけ」体験をしてしまい、その後はほとんど野外に出られない状況が続いていました。最近やっと完全武装で野外復帰しつつありますが、なかなかもとには戻れないようです。そんなわけで、今回はタイトルとは違ってしまいましたが、これも昆虫との付き合いには違いないので、「僕の虫刺され歴」と、そこから学んだ注意点を紹介したいと思います。

まず、僕自身は生まれつきのアレルギー体質です。今では、多くの方がスギやヒノキの花粉症に苦しめられていますが（今年は本当に最悪でした）、食物や大気までさまざまな化学物質に被曝する機会の多い現代人の生活は、必然的にアレルギー患者を増やしています。喘息やアトピーも花粉症も、発症する部位の違いだけで、すべてがアレルギー反応なのです。虫刺されでは、やはり命にかかわることの多いハチがもっとも怖い生物ですが、そのほかにもブユにやられるとものすごく腫れてしまう人もいますし、カのアレルギーで亡くなった方もおられます。

目次

身近な自然シリーズ…1・2	バックヤード探検隊…8・9
活動報告……………3・4	友の会NOW……………10
ナチュラ・ノート…………5	友の会プレサミット…10
ライブラリー連載(2)……6	アンケート集計結果…11
“この一冊”……………6	サロン・ド・小田原…11
何でも好奇心……………7	行事案内……………12

ハチの場合は、「ハチの毒で腫れたり死んだりする」と思っている方が多いのですが、あの場合も死因は、「ハチ毒に対する過激なアレルギー反応（アナフィラキシー・ショック）」が正解で、毒蛇などのように「毒そのもの」が原因で死ぬのではなく、ハチに注入された毒素に対する強度のアレルギー反応が問題なのです。重症の場合は、数分以内に死んでしまいますが、おもに気管内の腫れにともなう呼吸困難や、心臓停止・腎不全などの内臓障害が死因になるようです。怖いのはものすごく短い時間でこれらの劇症アレルギーが進行してしまい、「病院に連れて行ったところには死んでいた」というように、救命の時間がごく限られることです。



ホソアシナガバチ こみいった枝葉の中などに巣を造る。このため気がつかずに揺らしてしまい一斉攻撃を受けてしまうので注意が必要。

日本では怖い野生生物として「ヒグマ」や「ハブ」などの名前があがりそうですが、これらの生き物で命を落とす人は、最近では年に数人いるかどうかです。しかし、ハチは驚くべきことに現在でも平均しても年間40人以上（多い年では70人以上！）が亡くなっています。その多くはスズメバチ類が原因と考えられますが、アシナガバチ、ミツバチによる死者も少ない数ではないようです。日本で一番人を殺している野生動物は実は昆虫だったんですね。

僕のハチ刺されの歴史

さて、とはいっても普通の生活を送るなかでは、

そうそうハチに刺される機会は多くないはずです。

子どもの頃にはむちゃむちゃに野山で暴れまわったり、ハチの巣に攻撃を仕掛けて反撃されたりするので、受傷の機会も比較的多いでしょうが、大人になると多くの方々はそういう機会はほとんどないでしょう。とはいっても、林業の方、農家の方は、草刈によって知らずに巣を刺激してしまい、刺されることはありますし、自宅の軒先などに営巣されてしまうこともあるでしょう。僕の場合は、やはり常に野外での調査があり、一般の方に比べると刺される機会は多いのですが、数えてみたら13回ほどやられてました。やられすぎですね！

たぶん、初めて刺されたのが5歳の幼稚園の頃で、ミツバチを捕まえて指を刺された時です。とても痛かったのを覚えてます。その後も、17歳の高校通学中に出会い頭にアシナガバチ類に唇をさされて、この時はかなり腫れたことがあり、以下はこんな感じです。



セグロアシナガバチの巣
茂みの中に巣があった場合は、なかなか気がつかない。危うくくばしてしまうところだった。

21歳 インドネシアスマトラ島で、ジャングルで採集中、暑かったので帽子をぬいでかぶりなおしたところ、偶然ハチ（「スズメバチ類」と思われるが未確認）を帽子中に捉えたようで、後頭部をさされ、直後に全身に蕁麻疹、のどの浮腫で呼吸困難に。立っていられなくなった。たまたま同行の友人がハチアレルギー持ちで、内服薬をもっていたので、服用して数時間後に回復。今思うとかなり危険な状態だったと思う。以後野外調査の際には薬剤を持ち歩くようにした。

22歳 屋久島で調査中にきこり道の土中に巣を作っていたクロスズメバチ数匹に足を刺される。先を歩いていた先輩が巣を踏んづけて、後から歩いていた僕が巻き添えで刺された！

23歳 ボルネオ島山中で夜間採集中に夜行性のヤミスズメバチに首をさされた。

31歳 山口県の秋吉台で草原を歩いていてホソアシナガバチ類にやられる。

32歳 ベトナムの山中でセイヨウミツバチ数匹に刺された（汗を吸いに来たものに刺された）。

34歳 城ヶ島での観察会の途中とおりがかったキアシナガバチに左耳を刺された。

35歳 7月 愛川町の湿地帯を調査中にヨシをかきわけていたら右手指を刺される。

12月 オーストラリア・ケアンズ近郊でトンボをとっている時にネットに入っていた「アシナガバチ類」に右手指を刺される。

1月 オーストラリア・ケアンズ近郊で虫を捜して植え込みの下をのぞいていたら、頭上にあった巣を刺激したようで、「アシナガバチ類」に頭を刺される。

37歳 9月 初旬に山梨県内でチッチゼミ調査中に「キアシナガバチ」の巣に触れて数匹に刺される。

1月7日 オーストラリア・ケアンズ近郊の熱帯雨林で巣に触れて「チビアシナガバチ類」一匹に刺される。軽度の症状。

こうしてみると、なぜか30歳以上になってからの受傷が多いことがわかります。ハチに関してはやられすぎで反応が出なくなったのか、スマトラでの事故以来はあまりひどい症状はでていません。

調べてみると、年齢的には35歳以上がハイリスク・グループで、重症（命にかかわる）アレルギーを起こしやすいそうです。僕がオーストラリア・ニューサウスウェールズ南西部の、オーストラリア最高峰のあるスノーウイマウンテンでやられたのは、現地で「ブルアンツ」と呼ばれる原始的なアリで、湿原の調査時にやられて（油断してサンダルで入りカカトをさされた）、直後に動悸が激しくなり、めまい、気分の悪さを感じて国立公園事務所に行き、救急車で近くの町の病院に運ばれました。このアリは強力な毒をもっていて、お尻の毒針で刺します。ちなみにハチとアリは親戚関係にあり、アリはかむだけでなく刺す種類も多く知られています。

というところで、与えられたページが終わってしまいました。次回は、「では、どうしたら刺されるリスクを減らせるのか、また、刺された場合はどうすればよいのか(応急手当も含む)」についてお話したいと思います。

書籍紹介 フィールドガイドシリーズ②「危険な生物」(財)日本自然保護協会編
販売価格 2,000円



活動報告

〈箱根巡検〉

4月23日(土) 晴 参加 29名

今回の巡検は、箱根火山の形成史を訪ねて、真鶴半島を構成する熔岩および火山灰の観察を行いました。講師には箱根火山古期外輪山の調査の第一人者である日本大学理学部自然科学研究所の長井先生をお迎えいたしました。

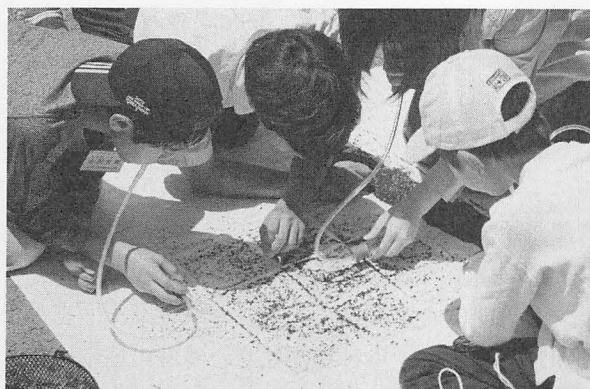
当日は10時に真鶴駅に集合し、①岩漁港の20万年前の安山岩質スコリア丘の構造物や内部構造 ②20～18万年前の白磯海岸の安山岩質熔岩流の内部構造や古期カルデラ期のテフラ ③13万年前の貴船神社の古期カルデラ期末期のテフラ ④福浦港の真鶴岬熔岩基底部の構造や箱根起源以外のテフラ等の観察を行いました。天気にも恵まれ有意義な観察会でした。(山下 紘)

〈土の中の虫ウォッチング〉

5月21日(日) 晴 参加 子ども15名、他23名

はじめは今日一日を子ども達と楽しく過ごせればと思っていましたが、土壌生物の観察をしている内に、少年期に虫取りをして遊んだ頃に戻った様な気持になり、我が子よりも身を乗り出して小さな生きものを探している自分がいて、とても新鮮な一日を過ごす事ができました。また、普段は気にも留めない土の中に我々の活動している地表よりも、もっと所狭しと活動している生きものがたくさんいる事を教わり、様々な物事の見方があるのだなと感心しました。スタッフの皆さんは知識豊富で活気があり、私たち家族はとても有意義な一日を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

(参加者 鹿倉好人)



みんなで土の中の虫を探す。山神社境内にて

〈早川水系の文化と歴史の探訪〉 Part5

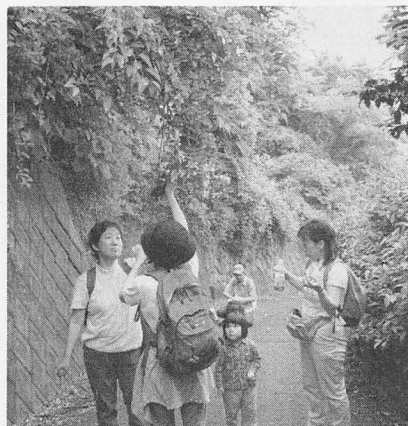
一頼朝と秀吉が歩いた路 自然観察会一

6月4日(土) 曇り 参加 30名

早川駅ー佐奈田霊社ー白銀林道ー畑の平ー早雲寺ー箱根湯本駅

「ママ、なんでこんなに歩いたと思う? あのね、楽しかったから。」帰宅後の娘の言葉です。

沿道に、クサイチゴ、キイチゴ、ヤマグワが実っていて、ご一緒の皆さんに採っていただき、まるで子ザルのように食べ、おいしいおいしいと連呼していました。おかげさまで、娘は初めての参加で楽しい経験をし、また、達成感も味わったようです。



ヤマグワの実をねだる子ザル?

母や祖母が良くお参りした佐奈田霊社など、歴史や自然に触れ、潤いのある時間を過ごしました。

(木村朝香の母)

〈新緑の里山を訪ねて～秦野・弘法山〉

4月26日(火) 曇・晴・雨 参加 43名

弘法山は低山ハイキングコースとして広く親しまれている里山です。特に珍しい植物があるわけではありませんが観察会が実施された4月末はまさに新緑の季節のまただ中。目に入るすべての植物から春～張る～を感じ取れました。山に入るまでの道中では、タンボポやトウダイグサの花のつくりなどの観察。行く手に見える山の木々(コナラ、クヌギ、クスノキ、アラカシ…)の微妙な芽吹きの色合いの違いを確認。ドングリの仲間は里山を構成する主要な木々ですが、その花をじっくり眺めることはあまりありません。長く垂れ下がる雄花は遠目でもわかりますが、さて雌花はどこにあるのでしょうか? 手にとってコナラの枝先が観察できる場所で、皆さん探し物に熱中しました。尾根道ではチゴユリ、ホウチヤクソウ、ヤマユリが混在していました。小さいときの姿は似通っていて見間違いそうです。

同行の勝山学芸員からは、今回も楽しいお話をたくさん伺うことができました。(田畑節子)

*6月3日「初夏の高尾山を歩く」は雨のため中止

〈親子教室 砂鉄を集めよう〉

5月8日(日) 参加 子ども22名、保護者15名

昨年までの砂がまだあるので、手間ひまの問題もあり今年もその砂を使うことにしました。砂鉄の含有量はしているから子どもたちがいくら砂鉄を採ったといっても砂全体が減らないのは当たり前の話ですが、心配なのはその砂の中の砂鉄が減って「砂鉄がちっとも採れない」と子どもたちが失望しないか、ということでした。自然科学系博物館のボランティアならば、心配するくらいなら砂鉄の残量を推計してみたら?といわれそうです。確かに酒匂川の砂鉄の含有量や子どもたちが持ち帰る砂鉄の量は何とか出せるでしょう。しかしどのくらい採れないと子どもたちが満足しないか、に答えるのは心理学的要素が入る分、難しくてできません。

それにしてもボランティアのこんな心配を他所に子どもたちはよく採りました。始めはいわれた通りにしていても、間もなく自分なりに工夫しています、直してあげると結果が見えますから「ああ、そうか」と納得します。「砂」君もよくお勤めを果たしてくれました。やれやれ。(新藤誠一郎)

博物館講座

〈磯の生きもののウォッチング〉

4月24日(日) 晴 真鶴三ツ石海岸 参加39名

相模湾の西端にちょっぴり突き出た真鶴半島。それほど大きくはない半島ですが巨大なクスノキやクロマツに覆われていて、さながら原生林に入り込んだような感じがします。後で植生についての説明がありましたが、これらの森は自生ではなく、植林された木々らしいということでした。

さて、今回は博物館講座の中でも人気のある「磯の生きもののウォッチング」を取材してきました。観察会は植物から鳥、そして海の中まで多角的に見るという主旨です。いつもは森の小道を散策しながら海に向かうそうですが、今回は潮回り(*1)の関係ですぐに海に行く必要があり、植物や鳥を観察する時間があまりありませんでした。もっとも、多くの参加者の目的は海中の生きもののようで、説明もそこそこに採集道具を片手に磯へと散らばって行きました(磯観察の合間に鳥も探しましたが、海鳥を含めほとんど見つからず。でもハンティングに失敗したハヤブサを見ることができてラッキーでした)。

一見すると何もいそうにない潮だまりでも、じっと観察しているといろいろな生きものが姿を見せて

くれます。慣れた人もそうでない人も次々に生きものを見つけては家族や友人と確認しあっていました。また大人では見過ごしてしまう生きものを見つけだす子どもたちの観察眼には特に感心させられました。

しばらくするとみんなの入れ物はたくさんの生きもので一杯になり、集めて仲間分けをすることに。子どもたちを中心に相談しながら8つほどのグループがまとまりました。肉眼でやっと見られるワレカラ類から40cmを超える巨大なアメフラシまで実に様々な種類が集まりました。最後に佐藤学芸員からそれぞれのグループについて解説をしていただきました。これだけの生きものの中でも、人間に近い仲間が岩に貼り付いているだけのホヤ類であることにみんなびっくり(*2)。専門家からの説明にも感心することばかりでした。最後に採集して来た生きものを海に返して無事終了。好天に恵まれた気持ちの良い春の1日を満喫しました。(村石健一)



採集した生きものの名前調べをしている子どもたち

(*1) 海は1日に2回潮が満ち引きを繰り返していて、1年を通してその時間帯と干満の差も変化しています。特に差の大きい時が大潮で、これらのサイクルを称して潮回りと言っています。

(*2) なぜなら人間の背骨に近い脊索という器官がある時期に持つからです。今回採集した生きものは全て無脊椎動物でした(便宜的に魚は除きました)。

友の会では自主的に講座を企画することができます。企画部に「こんなことをやってみたい」「こんな講座なら参加したい」など、アイデアをお寄せください。

友の会講座は会員対象ですが、博物館講座はどなたでも参加できます。申し込み制で、多数の場合は抽選になります。

ナチュラ・ノート

コウモリが飛んでいる

私とコウモリとの出会いは、コウモリ調査を手伝った事から始まります。その時はコウモリに特別な興味はなかったのですが、コンクリートの隙間からもしもじと体を動かしながら夕方の空に飛んでいくコウモリ姿を見て、またある時は、洞窟の前で日が暮れるのを待ち、コウモリがいるかいないか確認したり、いた時には、どんな種類のコウモリがどのくらいいるのか、ものすごくどきどきしながら待つ、そんな事を繰り返し、目を追うごとにコウモリの魅力に取りつかれていきました。そのうちに、コウモリがいそうな洞のある大木はないか、どこかに防空壕などの穴は残っていないか、きょろきょろするのが癖になりました。その中で特に魅力を感じるのは、バットディテクターという、コウモリの超音波を人間の可聴音に変換する機械を使って、闇の中を飛ぶコウモリを知る事、コウモリはまだまだわからないことがたくさんある事、そして、案外かわいい顔をしているという事です。

コウモリは日本の哺乳類の中で1番種類が多く、30数種類が記録されています。神奈川県では、そのうち13種類が見つかっています。その中には本州で十数個体しか見つからない、とても珍しいコウモリも確認されています。反対に私たちの生活に近いところで暮らしているコウモリもあります。夕方、川沿いや電灯の周辺をひらひらと飛ぶ小さなコウモリを見たことはありませんか？ アブラコウモリ（イエコウモリともいう）といい、人家の屋根裏や戸袋の中などをねぐらにし、最も身近で目にすることの多いコウモリです。コウモリはその種類によってねぐらの環境が違います。大木の洞、洞窟、建物



こんな洞窟をコウモリは棲みかにしています



洞窟の天井にぶら下がるコキクガシラコウモリ

の隙間、人家など様々な環境を選択しています。夏の繁殖期と冬の冬眠期によっても利用する場所を変えているようです。大きさも差が激しく、翼の形、それにともなった飛び方、高度、速度なども違います。本州に生息しているコウモリの中には一晩に体重の半分位の昆虫を食べている種類もあります。どのように昆虫を捕まえるかという、口や鼻から超音波を出し、昆虫や物にぶつかってはねかえる、その音を聞き取り、自分と昆虫や物との距離、方向を定めて捕らえます。

博物館のある小田原市から南足柄市あたりの箱根山麓でもコウモリの調査をしています。しだいにわかってきたことは、調べてみると想像以上にいるということです。今の段階では種類は多く見つかりませんが、コキクガシラコウモリという小さなコウモリが色々な所で見つかりました。コキクガシラコウモリは洞窟性のコウモリで戦争遺跡や用水路、横穴式井戸などに生息しています。今後も洞窟を見つけては調べ続けたいと思っています。また、洞窟に限らず、今まで見つかりなかった種が見つかる可能性もあり、いつでも期待に満ちたコウモリ調査はやめられません。調査の中でかつてはいたという話を聞くこともあります。もし、会員の方の中にご存知の方がいらっしゃったら、ぜひお話を聞かせてください。コウモリは多様な環境を必要とし、その変化の影響を敏感に受けています。小さな生きもののコウモリが人知れず絶滅していくということは十分に考えられます。目に見えなくてもコウモリが夜空を飛ぶ姿に想いを馳せてみてください。身近にいるコウモリの観察をはじめてみませんか。

(山口尚子)

「ナチュラ・ノート」は会員の方々の、自然科学・自然史に関する調査、研究などを発表する場です。投稿は広報部まで

もっとライブラリーを楽しもう！（２）

ミュージアムライブラリーの利用案内

司書 篠崎淑子

ライブラリーの入り口に、『ミュージアムライブラリー利用のしおり』が置いてあるのはご存知でしょうか？ 利用案内と、よくある質問が書いてあります。これを見ると探したい本がライブラリーのどこにあるのか、大体見当がつくようになっています。

ライブラリーでは図書、雑誌の閲覧、ビデオ鑑賞、パソコン検索（神奈川の自然など）ができます。3台あるパソコンはいつも子どもたちでいっぱいです。鳥の鳴き声が響き渡っています。

パソコンによる蔵書検索ですが、今のところこのパソコンでの図書や雑誌の検索はできません。現在検討中です。来館者が所蔵している図書を探せるように、図書の冊子体目録を作成してカウンターに置いてあります。もし探している図書や雑誌がありましたら、まずカウンターの学習指導員にご相談ください。

図書、雑誌の古いものは書庫にあります。閲覧したい場合は、カウンターにある『書庫内資料利用申込書』に記入してください。

ライブラリーでは、図書、雑誌の一般利用者への館外貸出は行っておりません。ライブラリー内での利用になります。

コピーサービスは著作権の範囲内で行っています。1枚10円です。図書や雑誌をコピーしたいときは、カウンターに置いてある『ライブラリー資料複写申込書』に必要事項を記入して学習指導員に渡してください。コピーは学習指導員が行います。

ビデオは自由にブースに入って簡単な操作を行うだけで見るができます。ブース内にビデオのカタログがありますので、それで見たいものを選びます。最近では、投稿ビデオの本数も増えてきました。20分以内の短い作品ばかりなので、ぜひご覧になってください。

収蔵資料検索コーナーは専門家向きですので、これを利用したいときはカウンターにいる学習指導員にってください。

◆◆ わたしの選ぶ“この一冊” ◆◆

学芸員 石 浜 佐栄子

『学研の図鑑 宇宙』

1971年・学習研究社

小学校の3年生か4年生くらいの頃だったでしょうか。世界宇宙局協力員のウサギが小型天体望遠鏡



を片手に世界中を冒険する児童書を読んだ私は、宇宙や地球について興味を持ち、両親にたくさんの質問を浴びせかけました。「どうして星は光るの？」「どうして月の形はだんだん変わっていくの？」…延々と続く娘の「なぜなに」攻撃に耐えかねた両親は言いました。

「そんなに知りたいのなら、図鑑を買ってきて自分で調べなさい」。

そうして私が買ってきたのが、この図鑑でした。絵や写真がとても綺麗だったためもあったか、毎日

毎日飽きずに眺めては、色々なことを知ってわくわくしていたことを今でも覚えています。この図鑑は知識だけではなく、調べることの楽しさも教えてくれました。もしもあの時「そんなくだらないことを言っていないで早く寝なさい」なんて言われていたら、自然科学好きになることも、地学の道に進むこともなかったかもしれないなあとと思うと、何だかとても不思議な気がします。

もうすぐ夏休み。子どもたちが色々なことに興味を持つ機会も多いことでしょう。「これはなに？どうして？」と聞かれた時、図鑑を取り出して子どもたちと一緒に調べてみてはいかがでしょうか。知りたかったことの答え以外にも、きっと色々な発見があるはずです。

ちなみに…私に興味のきっかけを作ってくれた、ウサギが世界中を冒険する児童書は、香山彬子さんの「ふかふかうさぎ」シリーズ（全5巻、理論社）です。20年以上も前の古い本ですが、まだあちこちの図書館にあるようです。とても楽しくて素敵なお話ですので、こちら合わせてお勧めしておきます。

何でも好奇心

学問の縦軸・横軸

学芸員 佐藤 武 宏

今年の春、友の会の会員に学芸員全員の研究分野や自己紹介などが配布されました(※注)。我が家も友の会の会員ですので、受け取った自己紹介に興味深く読みました。事務局から学芸員に指示されたのはただ1点、60～80字の字数制限を守ること、ということでした。字数オーバーしているのは誰か、ということはここでは触れませんが、やはり大らかな性格の人が多く感じました。それはさておき、短い字数で自分の専門分野を的確に表現することは、研究者にとってとても重要なことです。

ご存知のように、私たち学芸員は、それぞれ担当する分野を持っています。生きものを扱う分野を例にとると、それは霊長類であったり、両生爬虫類であったり、維管束植物であったりします。来館者や友の会と学芸員との関わりも、どんな生きものが対象か、ということから始まります。一方、生きものを扱う学問、すなわち生物学は、生きものをどのように研究しているのか、ということによって分けることができます。分類学、系統学、生態学、行動学といった研究手法がそれにあたります。

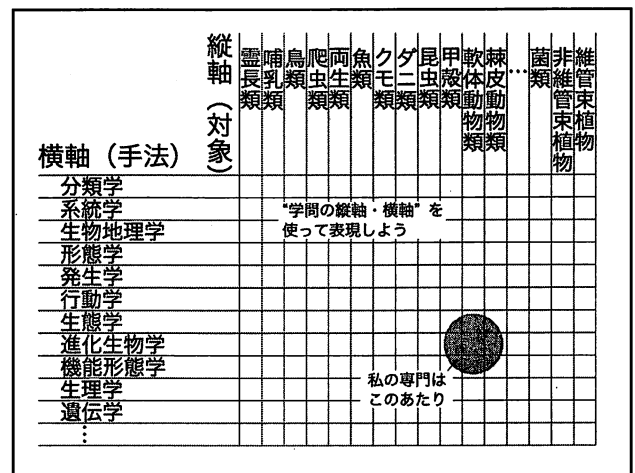
このように、学問はその対象と手法によって、細分することができます。私は常々このことを“学問の縦軸・横軸”とよんでいます。私の現在の研究の中心は、縦軸(対象)が軟体動物、横軸(学問的手法)が進化生物学です。そして、さらにその関連領域である、甲殻類や棘皮動物、生態学や機能形態学にも興味を広げている、ということになるのです(図)。

この“学問の縦軸・横軸”をつなげて読むと、ある研究者の専門を表現することができます。今回の紹介文でも、学芸員は自分の専門をこの方法で表現しています。より深い専門性を強調したい人は、「昆虫分類学」や「植物社会学」や「鳥類生態学」という表現を使っています。逆に、自分の専門は専門としてあるのだけれど、博物館の学芸員としてはこの分野を広く担当していますよ、ということ強調したい人は、縦軸(対象)だけの「菌類」や「魚類」や「古生物学」という表現を使っています。もしかすると『この分野のことならすべて私にお任せあれ』という自信の表われなのかもしれません。

しかし、当館の館長と学芸員全員の専門分野をこ

の“学問の縦軸・横軸”の図の上にプロットしたとしても、どうしても誰もカバーできない空白の領域が残されます。その最大の理由は、すべての分野をカバーするだけの人員を配置することができない、という現実的な問題です。

これを解決する方法として、分野を特化する方法と対象を特化する方法があります。地域の生きものすべての氏素性を明らかにしようという、伝統的な地域博物館がめざす姿が前者にあたります。一方で、最近増えてきた「恐竜博物館」や「海の生きものに特化した博物館」などのテーマ館は後者にあたります。しかし、現実には当館も含めて多くの博物館では、縦軸にも横軸にもあまり統一性はありません。見かたを変えれば、それは学芸員の専門性という点で、非常に多様性が高い、ということもできるでしょう。対象と学問的手法が人によって異なっているからこそ、お互いがお互いを刺激し合い、いい意味で競争し合い、領域を横断した仕事ができる、ということもあるかもしれません。そして、それぞれの学芸員は自分の本来の専門から、少しずつ関連領域に興味を広げたり、知識を深めたりして、空白の領域を小さくしていくように、日々努力しているのです。



一つ一つの博物館の“学問の縦軸・横軸”の図は、空白だらけかもしれません。しかし、複数の博物館の“学問の縦軸・横軸”の図を重ね合わせることによって、空白はだんだん少なくなっていく。重ね合わせる博物館が多ければ多いほど、分野的には充実していくことでしょう。これこそが、博物館の真のネットワーク化ではないかなあと、浅薄にも私はそう考えているのです。

(※注)

保存版“My Museum”生命の星・地球博物館で働く皆さん！

◆◆博物館バックヤード探検隊◆◆

パート3

5月11日(水) 参加4名

★大きな宇宙船

入生田駅を降りて国道1号線にかかる陸橋に立つと、生命の星・地球博物館は、まるで大きな宇宙船のような姿をあらわす。緑濃い箱根の山を背景に、早川のひとつりで、宇宙への旅をひかえて準備に余念がない宇宙船。スペースシャトルの発射台風景のように遠目には静かに見えるけど、近づくと、たくさんの人たちが立ち働いている姿が見えてくる。「生命」や「地球」の不思議を解き明かし、その楽しさや意義を多くの人々に提供するこの宇宙船＝博物館は、いったいどうやって整備され、動いているのだろう。



今回のバックヤード探検隊は、案内役を管理部の方をお願いして、主に施設の維持・管理、利用者への案内・サービスに係わる業務や調整、また、博物館の内容をより多くの利用者に提供するための企画や情報に係わるセクションで働く人たちを訪ねました。(時間の関係で清掃業務の取材はできませんでした)

★安全に快適に過ごせる場所を目指して

・警備業務

車で博物館に来たとき最初に出会うのは、駐車場入り口で案内をしてくれる警備員さんだ。「いらっしゃいませ。こちらへどうぞ。」誰にもはっきりとわかるように、大きな声と身振りで案内をしてくれる。子どもたちが乗った団体バスなどが来たときには、乗降の安全にも気を配らなければならない。警備室を訪ねて、仕事の内容を語ってもらった。このセク

ションは、全館24時間体制の警備をはじめ、施設内外の巡回、駐車場の案内誘導などが主な仕事だ。



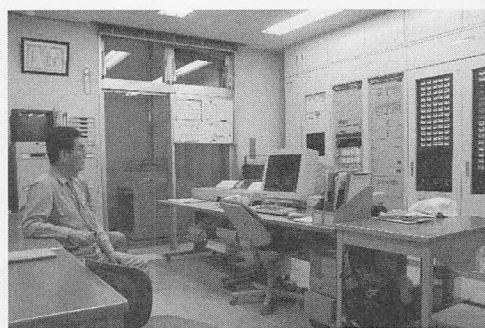
博物館を物理的に守るとともに、利用者の安全を確保する役割を担っ

ている。たとえば館内で具合が悪くなったとき、近くにいる警備員さんに声をかけてもらうのが一番だ。横浜市消防局の防災講習も受けている。適切な初期救護処置で助けてくれるはずだ。

・設備保守業務

中央監視室のドアを開けて室内に入ると、そこはまるで宇宙船のコントロールルームのようだった。各パネルにランプがとまり、パソコンの画面には館内の温度や湿度が表示されている。

ここは施設の電気・空調・水道・火災報知器など機械設備を監視し、保守管理を担うセクションだ。機械設備の面で、利用者の安全と快適さを守っている。停電になった時には自家発電機を動かし、エレベーターや身障者トイレに閉じこめられた時にはここへ第一報が入る。「4月に大規模な断水があった時は、影響が出ないよう緊張した」という。博物館としての重要な業務に、収蔵庫の空調維持がある。温度20℃、湿度70%以下に保てるよう制御監視されてい



る。収蔵資料を確実に未来へ引き継ぐための重要な仕事だ。

★「来てよかった！」の声を励みに

・総合案内業務

博物館の正面玄関に入ると、総合案内員の皆さんがにこやかに迎えてくれる。施設利用でわからないことがあれば、何でも教えてくれる。展示室をはじめとした諸施設、トイレや救護室、幼児室の場所やその利用の仕方。車椅子やベビーカーの貸し出しも

してくれる。

常時7～8人の体制で、カウンター業務をはじめ、ミュージアムシアターの案内や運営も担っている。

子どもたちが「こんなの見つけた!」「これは何?」と訪ねてくれば、2階のミュージアム・ライブラリーに案内してくれる。観察会でキノコを見つけた息子もお世話になった。「この博物館に来てよかった!」そんな思い出をお土産にさせていただくことが私たちの務めです、という。



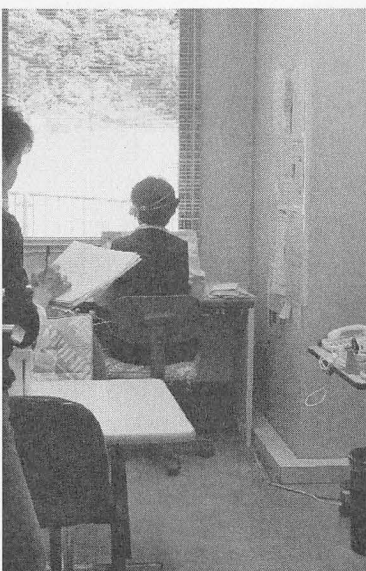
★声を頼りのつなぎ役

・電話交換業務

建物の一角、窓の外に早川を望む小さな一室が、博物館の内と外をつなぐ電話交換室だ。電話では姿が見えない、博物館への最初のアクセスポイントでもあり、「誠意をもってお応えすることに注意を払っている」という。次から次にかかってくる電話、「声が頼り」というお話に納得した。事務的な取次ぎはもちろんだが、専門分野の問い合わせもある。これはどの分野と判断して担当学芸員へとつなぐのは、博物館ならではの仕事。同じ名前の全く違う生きものもいて、振り分けの判断では「学芸員の皆さんにサポートしていただいている。

その積み重ねのお陰です」と。

「企画展のワークテキストが役にたった」「総合案内員の方にとっても親切にしてもらった」そんな声が寄せられた時、この仕事をやっていてよかったなと感じます、という。



★博物館システムの調整役

・管理部

以上紹介したいろいろな業務などが円滑に遂行され、施設面を中心に博物館システム全体が動いているための「調整役」を果たしているのが管理部の仕事だ。庶務全般を担当する管理課、予算・経理などを担当する経理課にお話をうかがった。「博物館も10年を経過し、施設の老朽化が目につくようになった」「一方、県予算は年々減額されている」その中で「この博物館をどう維持し、将来に引き継いでいこうかが私たちの務めだ」という。博物館は収蔵資料という「実物」を抱え、それを通して様々なことを伝えるのが役目だ。「実物」があってこそその博物館。施設の重要さをあらためて実感した。

★博物館をより有効に使ってもらうために

・企画情報部

こうした施設やサービスを有効に利用してもらう役割を担うのが企画情報部だ。講座など学習支援や教育普及の企画や広報を主な担当とする企画普及課。ライブラリーなど博物館情報を管理し、その利用をはかる情報資料課。利用者と博物館の仲介役といってもよいだろう。「博物館のいろいろな機能を利用してもらいたい。いかに多くの人に使ってもらえるか。それを工夫するのが私たちの仕事」という。「友の会」もここが担当部署だ。

取材を通して感じたことは、外部委託の方々も含め職員の皆さんがこの博物館に愛着を持ち、来館される方々を温かく迎えることに誇りを持って仕事をされているということだ。私たち友の会も、博物館に働く人々とともにこの「宇宙船」の乗り組み員の一人として、博物館を支え、そして自然の不思議や楽しさを多くの人に伝えていければよいと願う。

末筆ながら、お忙しい中、取材にご協力いただいた皆さまに感謝いたします。(広報部 櫻井 武)

今回訪ねたセクションの主な役割

- ・管理部管理課…人事、文書、財産管理、諸設備の整備保守や施設の利用に係わる調整など
- ・管理部経理課…予算・決算経理、物品調達、寄贈及び寄託借用物品の受領や返納など
- ・企画情報部企画普及課…学習支援活動、広報、団体対応等の博物館活動の企画、普及
- ・企画情報部情報資料課…博物館情報の企画、調整及び運営
- ・外部委託…総合案内、電話交換、警備、設備保守、(清掃)

友の会 NOW

皆さんこんにちは。今回よりこのコーナーを担当することになりました中村です。新組織での運営がスタートして3ヶ月、さまざまな課題解決の動きとともに大きな変化が現在進行形です。その運営の近況や運営陣の考え方などをお伝えしながら、会員の皆さんが愉しく充実した活動が行なえるよう進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いします。

第1回目は、友の会の目的に掲げられている「博物館支援」についてお話しします。会員の方と博物館との関わりは、講座など催しに参加されることですね。一見利益を受けるだけのように思えますが、実はこれが博物館支援の大きな力となっています。博物館の存在を多くの人に理解し認めてもらうには、誰にもわかる数字が一番です。数字が大きければ、この博物館は市民に必要とされているということになります。博物館が生き生きと活動し自然科学史や市民に対して貢献しつついていくためには、入館者や講座参加者を減らさない、そして増やすことです。さらに友の会への加入により、博物館を支える市民＝サポーターが確保されることとなります。

このように、皆さんが友の会会員であることそのものが博物館支援なのです。友の会では一人でも多くの会員が継続され、さらに増えていくよう務めています。

(事務・広報部担当副会長 中村恭子)

情報クリップ



会員状況

6/11 現在 正会員 510 名、賛助会員 3 名
賛助会員にご加入いただいた方 (4/1~6/20)
大分県大分市 河野 様
東京都千代田区 (有)千代田トータルサービス様
神奈川県足柄下郡 中村 様

報告

●会員特典がさらに充実!!

常設展の観覧料「無料優待券」が正会員は年4枚、賛助会員は年12枚発行されます。会員と同伴の方も利用できますので、ご家族やご友人も一緒にどうぞ。同封の「無料優待券の利用案内」をご覧ください。

●第65回サロン・ド・小田原 6月2日(木)

「神奈川県の昆虫は何種いるか」 演者：平野幸彦氏
参加者：講演会42名、茶話会29名

●友の会事務コーナー開設

友の会運営が実務的に活動できるようにと、博物館のご理解とご協力により、ライブラリー角から、企画情報部隣のボランティア室一角に移転しました。

友の会プレサミット報告

2005年3月5、6日「いま、自然史博物館友の会を考える」～自然をめぐる博物館と学習者・地域社会のよりよい関係を作るためのプレサミット～が開かれ、山積する運営課題の解決を進めている当会の佐藤会長と私2名が、役員会の了承を得て情報収集と他館との交流を目的に淡路島まで行ってきました。

主催はNPO法人 大阪自然史センターと、NPO法人 西日本自然史系博物館ネットワークで、企画運営は事務局がある大阪市立自然史博物館（以下大阪市博）がおこなっており、担当は佐久間学芸員です。

「友の会に共通の問題点が存在するが、解決の糸口は誰かがもっている。同じ失敗を繰り返さないためにもこうして友の会が集まり、情報交換や協議を行うのは有用である」との主催者の言葉でスタート。

以下印象に残った発言を並べてみます。

榎原昆虫館友の会日比さん：友の会独自事業を行うためには財政的裏づけが必要で、友の会をNPO化するべく立ち上げ中。館の指定管理者制度導入が迫っていることと連動。

伊丹市昆虫館井上さん：友の会設立動機は館閉鎖の危機に直面した場合のサポーターを創設するため、地域の人々に必要とされる博物館づくりを支援。

大阪市博橋さん：博物館の教育普及機能は友の会が担う。そのため学校・地域との連携を重視。博物館にとって市民とはパートナーではなく「財産」。NPO法人化により会計の透明性が高くなり、スタッフの雇用条件がしっかりする。

琵琶湖博物館青木さん：博物館支援とは博物館の高度な利用ということ。

和歌山県立自然博物館内藤さん：友の会行事参加は誰でも参加しやすいよう基本的に申し込み不要に。

倉敷市立自然史博物館河田さん：博物館が評価される場面が多くなったが、友の会評価は今回のような会議がその評価につながるのか？

福井市立自然史博物館赤井さん：市町村立博物館や友の会は小さいなりの活動がある。顔の見える活動を目指す。

事務局佐久間さん：官である博物館ができないことを、民である友の会が担える。行政とNPOのパートナーシップが一般化しつつある。友の会のミッション＝使命とは何か？博物館を存続させ、活動を継続させることである。

我が友の会の今後を見据えるための、とても有意義な2日間でした。(企画部担当副会長 関口康弘)

●アンケートの集計結果

2005 年度総会資料と共に会員の皆様へ送付させていただきました「友の会通信アンケート」の回収状況とその結果の概略を報告させていただきます。

配布総数 632 通のうち回答を寄せて頂いたのは 269 通（葉書 260、FAX・メール 9）で、回収率は 42%でした。19 項目という多岐にわたる設問にもかかわらず、多くの会員の皆様のご協力には、編集部一同感謝の気持ちでいっぱいです。

各設問についての詳しい結果やコメントは紙面の都合で掲載できませんが、この友の会通信をほとんどの方が目を通してくださっていること、愛読項目があること、博物館や友の会の行事に興味をお持ちであることがわかりました。また、こうしたらもっと良い紙面になるというさまざまなご提案をいただくことができました。同時に、友の会ホームページについても、ご意見ご要望もいただきました。

編集部では、会員の皆様のご提案やご意見を今後の紙面作りやホームページ作りに大いに反映させていきたいと考えております。

●友の会HPの試験運用が始まりました

通信の WEB 版のほか、会員参加型をめざし、行事の体験報告や観察記録の投稿などもできます。現在は非公開で、モニター参加者で試行しています。参加ご希望の方は、友の会アドレスまでお申し込み下さい。



●書籍の紹介

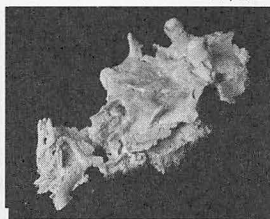
『学芸員の仕事』 岩田書院
神奈川県博物館協会編
販売価 ¥1,995(税込)
当館の山下、高桑、奥野、
田口学芸員が執筆されています。好評により 2 刷。



●第 66 回サロン・ド・小田原 8 月 20 日（土） 特別展「化石どうぶつ園」より 学芸員 大島光春

「化石どうぶつ園」は動物園の化石ではありません。今回の特別展では、アメリカ合衆国のサウスダコタ州を中心に分布するホワイトリバー層群から産出した、新生代古第三紀漸新世（およそ 3300 万年前）の哺乳類化石を紹介します。

およそ 6500 万年前に恐竜が絶滅して 3000 万年が過ぎ、現在までの中間点であった漸新世。「サロン」では、その時代の北アメリカに生息していた動物化石の中から、変わり種を中心に上げ、「何考えとんねん！」（なぜ関西弁？）と、つつこんでみたいと思います。展示を観覧いただいた後、映像を用いてパートごとにじっくりと解説をします。さらに詳しくお知りになりたい方、意見交換などしてみたいと思っていられる方は、講演後に催される茶話会にぜひご参加ください。



プロトケラスの角

<特別展のご案内>

「化石どうぶつ園ー北アメリカ漸新世(ぜんしんせい)の哺乳類ー」7 月 16 日(土)～11 月 6 日(日)

特別展では、漸新世の化石標本を、現在の哺乳類と比較しながら紹介します。期間中には、楽しい子ども向け体験講座も開催！

●第 67 回サロン・ド・小田原 10 月 22 日（土） 「ミュージアムライブラリーの楽しみ」

当館のミュージアムライブラリーの司書を読んでいる篠崎淑子さんにお話をさせていただきます。ミュージアムならではの図書の活用術をうかがえると思います。

秋の夜長に一冊の本がより楽しめるのではないのでしょうか。

サロン・ド・小田原の講演では、学芸員や外部の研究者等により様々な話題が提供されるとともに、続く茶話会では演者を交えた参加者同士の交流が行われています。このサロンは、どなたでも参加できる会です。

行 事 案 内

◆ 夏休みオープンラボ「ミニ講座」

日時 7月31日(日) 10:00～15:00

8月6日(土) 同上

場所 講義室西、実習実験室

対象 小中学生とその保護者 *「子ども」

◆ 「水餓鬼を育てる! Part3」水辺の観察会

日時 8月6日(日)

都合により中止いたします

◆ 夏休みオープンラボ「ミニ講座」

日時 8月14日(日) 10:00～15:00

8月21日(日) 同上

場所 講義室西、実習実験室

対象 小中学生とその保護者 *「子ども」

◆ 「鉱物みんなで鑑定会」

日時 8月27日(土) 10:00～15:00

場所 講義室東

対象 小中学生とその保護者

◆ 「岩石標本を作ろう」

日時 8月28日(日) 10:00～15:00

場所 講義室東

対象 小中学生とその保護者

◆ 鉱物観察会「大月大洞岩」

日時 10月15日(土)

場所 大月大洞岩

対象 会員

◆ 植物観察会「農村風景を歩こう」

日時 10月29日(土)

場所 足柄平野

対象 会員

◆ 「早川水系の源を探る Part9」自然観察会

日時 11月12日(土) 9:30～15:30

場所 小涌谷～浅間山～湯坂山～湯本

対象 会員

◆ 第66回 サロン・ド・小田原

特別展「化石どうぶつ園」より(11ページ参照)

日時 8月20日(土)

場所 県立生命の星・地球博物館 1F 講義室

講演 17:30～18:30(1F西側講義室)

茶話会 18:30～20:00(1F東側講義室)

参加費 講演のみの参加は無料です

茶話会参加費は、大人1,000円

申込み 講演会は申込み不要です。

茶話会に参加される方は、fax、またはEメールで、友の会事務局までお申し込みください。

申込み先 (Fax) 0465-23-8846 友の会事務局宛

(Email) tomonokai@nh.kanagawa-museum.jp

◆ 第67回 サロン・ド・小田原

「ミュージアムライブラリーの楽しみ」

日時 10月22日(土)

(その他詳細は第66回に準じます)

*「子ども」とは、博物館事業「こども自然科学ひろば」のことです。友の会では、子ども向けのオープン行事を対象企画にします。助成により平成17年度は参加費が無料になります。

◇次回の通信発送 10月14日(金) 10:00から
発送作業に皆様のご協力をお願いします

◇行事への参加申込み方法

別途チラシを参照され、行事名、参加者全員の氏名、年齢(学年)、代表者の住所、電話番号、その他指定の必要事項を記入し、普通はがきまたは往復はがきでお申し込みください。

宛先は、生命の星・地球博物館友の会事務局(主催グループ名を記載)へどうぞ。

発行: 神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会
Vol.9, No.2, 通巻49号 2005.7.10 発行
編集: 友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846
E-mail: tomonokai@nh.kanagawa-museum.jp